

南あわじ市 平成 21 年度 事務事業評価シート  新規  継続  
( 団体用 )

## I 基本事項

		整理番号	1393
事業名	南あわじ体育協会		予算科目
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課	会計
電話	0799 - 37 - 3020		款
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	一般会計・1
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		教育費・10款
			項
			目
			社会教育費・5項
			社会教育総務費・1目
南あわじ市総合計画 施策体系		まちづくりの柱	人づくり__知恵あふれ__郷土愛が満ちるまちづくり__
		まちづくりの目標	大好き__ふるさと南あわじ[郷土愛]
		施策目標	地域の歴史を学び、祭や伝統文化に親しみ、語り継ぐことのできる市民を育てる

## II Plan&amp;Do (計画・事業内容、団体内容、投入資源)

団体の概要	団体の活動目的	(対象者をどのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入) 市民の体位、体力向上と健全なスポーツの発展を図り格調高い文化の市づくりに寄与することを目的とする団体。				
	団体の活動内容	(主な事業、具体的な活動内容等) 市民のスポーツ振興を図る。 市民の体力向上を図る。 市民の健康増進を図る。 市民の競技力向上を図る。				
	団体の概要	(どのような人が団体の構成員となっているか、構成員の内訳等) 平成17年5月21日設立。 構成団体は、体育協会加盟団体、各種目協会、各地域体育協会、学校体育団体。				
	事務局の所在 (直接事務執行部署)	<input type="checkbox"/> 補助団体	<input checked="" type="checkbox"/> 市役所	構成員人数(人) 35		
	補助金算出根拠	事業経費を積み上げ、補助額を決定する。				
補助交付期間	<input type="checkbox"/> 平成	年度	~	平成	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)					
	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から 旧町体育協会を合併し、地域と種目協会で組織する体育協会を組織化する。					

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
資源配分 (インプット)	直接事業費 (千円)	9,000	11,000	10,000	10,000	10,000
		9,000	11,000	10,000	10,000	10,000
	事務局事務費(市が事務局の場合)	0	0	0	0	0
	財 源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	9,000	11,000	10,000	10,000	10,000
	人件費(正規職員)[B] (千円)	10,764	12,040	5,580	4,230	4,230
	平均人件費(1日当り)	29.9	30.1	27.9	28.2	28.2
	事業量1(事業に要した日数)	180	200	200	150	150
	事業量2(事業に要した人数)	2	2	1	1	1
	年間経費([A]+[B])	19,764	23,040	15,580	14,230	14,230
経費に関する 補足説明	平成20年度の補助金見直し時に減額措置があった。					

### Ⅲ Check (事業の自己評価・一次評価)

費用対効果	(費用対効果の分析、問題点・課題などを記入。) 平成20年度より、事務局を生涯学習文化振興課から健康広場に移し担当の正職員を配置するなかで、組織の効率化と事業内容の見直しを進めている。 副会長についても平成20年度より2名体制に変更し、また、事業推進委員会と財務委員会を設置するなど組織の改革に取り組んでいることにより、事務局負担を軽減する方向である。 地域体協事務については、緑は緑公民館職員、西淡は社教センター職員、三原は健康広場臨時職員、南淡は文化体育館職員が担当している。事務簡素化には務めているが、役員に事務全般を任せることは難しい。	自己評価 (5点評価)
		3
必要性	公共性の高低 <input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低 (公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 市民の身近な所で、スポーツを通じて健康づくりの場の提供が不可欠であり、そのスポーツ活動の場を提供する体育協会の必要性は高い。地域体育協会、種目協会、中学校体育連盟を傘下に抱えており、各種のスポーツ活動の振興に大きな役割を果たしている。	自己評価 (5点評価)
		5
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 体育協会の加盟団体である地域体協、種目協会、中学校体育連盟を中心に、スポーツクラブ21とも連携を図り、誰もが、いつでも、どこでも、身近なところでスポーツ活動を楽しめる場を提供することのできる基盤整備を進めて行くことが引き続き必要であり。スポーツ分野に精通した指導者集団によって、市民がより一層、スポーツに関心を持つような環境づくりの重要度は大きい。	<p>評価グラフ</p> <p>費用対効果 3 必要性 5</p>

## IV Action&amp;Plan (改善・改革の内容及び次年度以降の計画)

	平成22年度にできる改善・改革	平成23年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 事務局変更 <input type="checkbox"/> 手法見直し <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減
	<p>ボランティアで支えられてる組織であり、組織活動への支援が引き続き必要と考える。</p> <p>なお、協会の活動については、現行の活動を生かしつつ、「財務委員会」並びに「事業推進委員会」の中で、活動内容を検証した上で、組織の簡素化と行事の統廃合を含めた改善案を検討していく。</p>	同左。
(現状維持以外の改善方法)		
改善によって期待される効果		
(現状維持の場合も記入)	<b>仮に</b> 補助金、交付金を廃止した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) スポーツ行政の停滞につながる。 スポーツ行事の減少。競技人口の衰退、青少年の健全育成の後退、高齢者の健康維持の場の縮小等、悪影響のみ考えられる。	